

【自立支援協議会】全圏域

3. 各市町村協議会の取組み状況【報告】

4. 事例検討【協議 グループワーク】

「安心して暮らせる住まいについて」

【県 央】圏域の地域課題及び取組み状況について

1 地域課題について

①令和3年第2回県央障害保健福祉圏域自立支援協議会（抜粋）

- 相談支援体制整備

（相談支援事業所の確保、委託相談等を含めた相談支援体制の拡充）

- 医療ケア児者の短期入所の確保、人材育成

- 地域移行に係る受け皿、グループホームや一人暮らしを体験する場の不足

- 地域生活支援拠点の医療ケア、行動障害のある方の緊急時支援における連携体制

②令和4年度県央障害保健福祉圏域自立支援協議会運営委員会で確認された課題一覧

- サービス提供事業者における支援力、スーパービジョン体制の脆弱

- 施設入所中の児童の成人期への地域移行に伴う課題

- 自立支援協議会の運営方法について

③令和5年度県央障害保健福祉圏域自立支援協議会第2回運営委員会で確認された

課題一覧

- 強度行動障害のある方の居住の場

【自立支援協議会】全圏域

とくべつしえんがっこう そうげい りよう ばあい たいおう
・特別支援学校の送迎バスが利用できない場合の対応

からだしょうがい かた
・身体障害のある方のグループホーム

2 課題解決に向けた取組みについて

じょうきかだい けんいききょうぎかい うんえいいんかい ぶかい れんらくかい いりょうてき じ
上記課題①、②は、圏域協議会、運営委員会、部会・連絡会・医療的ケア児ブランチ

かいぎ と く きんきん とりく じょうきかだい きょうどうどうしょうがい かた
会議にて取り組んでいる。僅々の取組みとして上記課題③「強度行動障害のある方の

きよ
居

じゅう ば がつ けんおうけんいきじりつしえんきょうぎかいきょうぎこうじれいほうこく けんとう い
住の場」について2月の県央圏域自立支援協議会協議事項事例報告と検討を行った。

べっしりょうさんしょう
(別紙資料参照)

「安心して暮らせる住まいについて」

～にこにこざま協議会の事例報告から考える、障がい特性に応じた住まいの課題～

令和6年2月8日
座間市障がい児・者基幹相談支援センター
潮田 満

【はじめに】

今年度のにこにこざま協議会（座間市地域自立支援協議会）にて、市内の相談支援事業所より事例報告を通じて、地域課題が提起されました。

当日のにこにこざま協議会では、より広域な範囲でこの実情を共有、考察されることにより当事者の暮らしの改善を図れるのではないかと意見が挙がり、本日このようなお時間をいただきました。

今回の事例を通じて、皆様のご意見等をおうかがいできればと思います。

〈事例の概要〉

困っている事：入所期限のある施設に入所しているが、安心してご本人が暮らせる次の「住まい」が見つからない。

- ◎ご本人・・・30歳代の女性。知的障がいあり。療育手帳A1を取得。著しい行動障がいを有している方。
発語はない。絵やカードで意思を伝えようとする。

〔経過〕

本人、父母の3人で暮らしていたが、高等部卒業後数年で、母が難病を発症。
母には重度の身体障がいがあり、それ以来、本人と父の二人暮らしとなる。
本人の介護負担が父一人にかかる事になった。

父は本人に対する愛情はあるが、本人ケアへの疲弊や母の入院などのストレスから、本人へ身体的虐待を繰り返してしまう状況に。（本人の体にあざを確認。父親自身が暴力行為を認めていた）。
在宅時代は介護負担軽減すべく、父子ふたりっきりの時間をなるべく作らないようにサービス量を増やすなど対応していたが、3か月に1度程度、近隣住民や関係者から虐待通報が入る状況であった。
家族との同居継続は限界に達していた。

上記の背景から2年の期限付きで、県外施設の国立のぞみの園（群馬県）に本人が入所した。
現在、入所2年が経過したが、本人が安心して暮らせる住まいは見つかっていない。
施設からは退所期限を延長してもらっているが、これ以上の延長はできないと伝えられている。

〈ご本人の特性〉

【こだわり】

物の数、量、位置、等が気になり、物品の補充、開封などの要求が強い。
本人が行いたい行動のルーティンがある。時間が迫っていてもルーティンを崩す事は難しい。
数時間単位での行動停止
予定変更を受け入れるには繰り返しトイレへ行く、唾をはく等の切り替え行動があり、時間を要する（数時間必要な時）。

【破壊行為】

壁紙や天井紙を破く。蓋状のものを壊す（便座、換気扇カバー、排水溝、スイッチ類のカバーなど）。
物のタグやシールをとる。電化製品のアース線を切る。服を破く、物を投げる。
壊れかけの物やなくなりかけの物をそのままにできない。（全部壊す。全部捨てる）。

【自傷行為】

大きな声をあげ、自身の腕にかみつくなど。

◎推察される行動の要因

→本人にとって不必要あるいは不足している状態、不快に感じるものが目の前にある状態、
本人が伝えたいことが伝わらない時、本人の行動を制止した時など。

*これらの行動は本人が自制できない、衝動性や強迫性の特性ゆえに、時間や場所、他者の所有物など状況に関わらない。
家族、支援者の身体的、心理的負担に加え、修繕費など経済的な負担が大きい。
何より本人の心理的苦痛や身体疲労も大きいと思われる。



本人の心理的苦痛や身体疲労を軽減し落ち着いて暮らすためには、本人が違和感を覚えない環境設定や手厚い支援が必要とされる。

◎次の住まいに向け相談支援専門員を中心に、画策しているが下記の様な状況。

【支援付き一人暮らし】

重度訪問介護利用の一人暮らしを画策したが、破壊行為がある為に賃貸物件を借りる事が困難。例えば、トイレを破壊した場合は、自宅外のトイレに行くなど、現実的ではない状況に直面する。修繕費、弁償費用など経済的な負担が大きい。ヘルパーの確保にも課題が大きい。上記の理由から家族の了解が得られない。

【グループホーム】

現在のグループホームの人員配置では、本人に対応する見守り等に時間がさけず支援が困難と断られる。また、ホームのハード面から、本人が気にならない物への環境設定が困難。

【入所施設】

神奈川県全ての入所施設に相談したが、全て断られている状況。問合せの中で、民間施設では著しい行動障がいがある方の受入れは難しいとコメントあり。

県立施設にも入所の相談をしているが、各施設のそれぞれの事情（通過型、施設の改革中、定員の変更、施設の環境面の変化など）を理由に現状では難しいと断られている。

～今回の事例報告から皆様にお考えいただきたい事～

今回、ご報告させていただいた事例の方は、身近な支援者の話では、数年前であれば、県立施設に入所され、生活していた方ではないかと推測されています。

公の方針として施設生活から地域生活への移行が進められていますが、受け皿となるべき、地域資源や住まいの場は現時点では整っておらず、特に、障がい特性上受け入れがづらい方の利用が困難で、住居に関してはこのような方を地域で受け入れる想定が進んでいないと感じられます。

現在は新しい体制への移行期間であり、整備を進めている状況だと思いますが、ご本人達は「今」を生きておられ、整備される時まで、待機できる場所がありません。

今回の様な事例は人数としては、おそらく多くはありません。それだけに基本路線の確認と共に、「例外」を如何に捉えるのかを求められているように感じています。

今回の事例では父が「行き先が見つからないのであれば、自宅に戻してください。2人でやれるだけやって最終的には私が終わらせます」と話されています。本人、ご家族の困難を取り去れるように、今後多くの方のお知恵、お力をお借りできればと思います。

今回の事例報告を聞いた皆様のお考えなどをお話いただければと思います。よろしく願いいたします。



5 グループ毎に感想、課題、取り組んだほうがいいことなどを協議

(4) 事例報告（協議 グループワーク）

【テーマ 安心して暮らせる住まいについて】

事務局八重樫より資料3-2を用いて、今後、自立支援協議会には守秘義務を設け、事例から地域課題の共有や支援体制整備に向けた協議の場になることを説明、座間市障がい児者相談支援センター潮田氏より「安心して暮らせる住まいについて」をテーマに座間市で行動障害のある方のケース報告を頂き、5グループにわけ、ケースの感想、地域課題として感じたこと、次にできることなどについて協議を行う。各グループ協議内容については、別紙参照。各グループより協議内容を報告。

【1 グループ】

内容は重なるが、少人数のグループホームが必要ではないかとか、行き場のない人、地域の受け入れ態勢が整っていない状況の中では、県立施設としての役割はあるのではないかと。地域移行の流れは将来的には実現していかなければならないが、少人数のグループホーム、専門的な支援できる人材、そのための予算も必要になる。

【2 グループ】

お父様の最後の言葉がどういう意味なのか。支援者として重く伝わっている。複数意見あり。以前であれば、県立施設で生活していた人ではないか。実際に働いて者とするダブル部分がある。施設でも大変だったが、地域で生活するとなるとどれだけの難しさがあり、大変なのだろうと感じた。ピアからは、家族と現在は生活しているが、家族が亡くなった後地域で安心して暮らせるのか考えると不安になった。医療面のことがわからないが、医療面でのサポートがどうなっているのか。確認したいこととしてあった。

【3 グループ】

地域の理解が必要である。本人のやりたいことを支えていくには、地域の人材育成が求められるのではないかと。人材育成をただするのではなく、何十年も続けて組織化させて支援を確立している自治体もあるので、神奈川県でも進めてもらいたい。本人の望む暮らしの情報がもっとあるといいのではないかと。

【4 グループ】

まず国が施設から地域にと一概にいっているが、そうでない人もいるのではないかと。ケースの状況を考え、当事者、家族が安心して暮らせることが先ずは大事ではないかと。今回のケースでは、強度行動障害のある方という中で民間施設はすべて断られたとの報告があったが、民間は民間の立場があり、そのような状況の中で受け入れるのは難しい状況だったのではないかと。一案として、モデル事業として、一人だけのグループホーム、認可申請の中で行動障害の人も受け入れることを含め、許可することも必要ではないかと。しかしながらマンパワー不足もあるので、県のモデル事業として位置づけでやっていったらよいのではないかと。民間だけでは難しいので、県、市の予算にも反映し、官民合わせてやっていくべきではないかと。県立施設の役割を再度考える必要があるのではないかと。意見があった。

【5 グループ】

多くの意見があった。今回の事例では、1事業所だけでは担えない課題。広域的なサポート、協力体制が必要ではないか。福祉の中で色々考えているが、限界がきているので、不動産業界、理解を求めていく活動、協力を考えていってもいいのではないか。グループホームが増えているが、入れない方が存在している。県の施策は施設から地域となっているが、地域は受入れの準備を進めている中なので、行き場のない方が一時でも受け入れてもらえるような場としての意義もあるのではないか。

【潮田氏より】

皆さまありがとうございます。状況を知って頂きありがたい。今日の話は、担当者に伝え、県レベルの協議会でも伝えて頂きたい。

【会長】

この方が地域で暮らせれば誰でも地域で暮らせるだろうと思う事例だった。統計的には地域移行がすすんでいるが、重度、行動障害、医療的ケアのある方は全然進んでいない。そこをどうするのか課題。人数は少ないが、そこが出来れば、全体の底上げにもつながる。

(5) 閉会の挨拶（金子副会長）

大変意味のある意見交換ができた。特に議題3、4は重要な問題。強度行動障害のある人も問題は、障害福祉サービス事業所が支援を拒む傾向があり、現状もわかりました。これまでは県立施設が民間施設で受け入れない強度行動障害のある方を受け入れるといった障害支援の先頭をきる役割を担ってきた。しかし、現在では、ほとんどが指定管理制度を導入したことも要因にあると思うが、最近では支援の質の低下も指摘されている。報告にもあったが、どこにも受けしてもらえなくなったケースも増えています。このような現状の中、神奈川県には市町村、事業所と連携を図り、強度行動障害のある方のケースに対して、表面的な処遇ではなく、根拠ある支援への転換を図って頂きたいと思う。研究、人材育成も県の役割だと思っている。障害者の地域生活を支える多様なサービス、例えば、住まい、就労、食事、医療、交通などを令和4年施行された社会福祉連携推進制度を進め、住民を含めた連携が必要だと感じました。そこで最後に2つお願いがある。議題3、4の協議内容をしっかりと、県の協議会へ報告し、議論していただきたいと思っている。障害福祉課の栗山様にも、本日浮彫になった課題を県の中にも持ち帰っていただき、福祉部の中で問題の共有をお願いしたい。

【自立支援協議会】全圏域

れいわ ねんど けん せい けんいきしょうがいしゃじりつしえんきょうぎかい かいさいじょうきょうおよ よてい
令和5年度【県 西】圏域障害者自立支援協議会 開催状況及び予定

ざちょう うちだ あつし しょぞく やまきたまちふくしか ちちょう
座長：内田 敦（所属：山北町福祉課 課長）

1 自立支援協議会 当事者の参画状況について

(1) 当事者委員の参画：あり（人数：10人）

しょうがいしゅべつ ちてき からだ せいしん じゅうしん い
（障害種別： 知的・身体・精神・重心・医ケア）

(2) 当事者家族の参画：あり（人数：8人）

しょうがいしゅべつ せいしん じゅうしん い
（障害種別： 精神・重心・医ケア）

2 自立支援協議会の開催予定及び開催状況（協議内容等）について

(1) 令和5年度第1回 開催日：令和5年7月31日 開催方法：ハイブリッド開催

ア 県西障害保健福祉圏域相談支援等ネットワーク形成事業について

イ 地域自立支援協議会の報告

ウ 医療的ケア児等支援に関する取り組みについて

エ 神奈川県の取り組み

オ 地域生活支援拠点事業について

カ 当事者目線の障害福祉推進拠点事業について

キ 当事者委員から活動報告

ク 各機関からの情報提供等

【自立支援協議会】全圏域

【けん西】せい圏域のけんいき地域課題及びちいきかだいおよ取り組みとりく状況じょうきょうについて

1 ちいきかだい地域課題について

(1) しつ質のかだい課題

- ① せんもんできしえん専門的支援（いりょうてき医療的ケア、きょうどこうどうしょうがいなど強度行動障害等）に関するかん専門的知識及び支援体制の
ふそく不足
- ② かくじぎょうしよ各事業所におけるじんざいいくせいきかい人材育成機会（まな学びとかえ振り返り）や他分野多職種連携のふそく不足
- ③ き切れ目のない支援を行うためのしえん連携体制・おこなネットワークのれんけいたいせい構築不足

(2) りょう量の課題 : けいかくそうだんおよ計画相談及びサービス提供事業所のていきょうじぎょうしよ人材不足

(3) たその他の課題

- ① さいがいたいさく災害対策に関するかん支援体制のしえんたいせい構築不足
- ② ちいきいこう地域移行に関するかん支援体制のせいびふそく整備不足

2 かだいかいけつ課題解決に向けたむ取り組みについて

(1) ① がつ7月25日に第1回にちランチ会議だいいかいを実施。エリア内の課題のない共有及び整理を

した。だいいかい第2回を2月22日（あしがらかみちく足柄上地区）、だいいかい第3回を2月29日（あしがらしもちく足柄下地区）

に実施し、こんご今後の課題解決むに向けた取り組みについてけんとう検討した。

② しえんがっこう支援学校ときょうさい共催でけんしゅうかい研修会じっしを実施し支援体制を構築している。インクルーシブ

をテーマにかぞくしえん家族支援を含めたふく福祉事業所とのふくしじぎょうしよ連携事例、れんけいじれい医療的ケア児のいりょうてき進路

せんたく選択におけるれんけいじれい連携事例のけんとう検討を行った。

【自立支援協議会】全圏域

(2) 相談支援事業所に受け入れ状況のアンケートを実施。アンケート結果を事業所

および行政と共有している。また、相談支援専門員初任者研修のインターバルを

実施し、相談支援専門員の確保に向け取り組んだ。

(3) ①小田原保健福祉事務所と協働し「災害の備えノート」を検討した。医療的ケア

児宅に訪問し、ノート活用のためのヒヤリングを実施し、実際に活用しやすいも

のにするために検討を重ねていく予定。また、関係機関と災害対策について検討した。

② 県西施設長会と共催で地域移行に関するアンケート調査を実施。地域の受け

入れ基盤となる共同生活援助事業所を中心に、受け入れ状況や課題等の聞き

取りを行った。「障害者支援施設の連携と見直し」「グループホームとの連携」

「人材の確保と育成」の支援の3つの柱を軸とし、利用者一人ひとりが、自ら

の意思に基づいて安心して自分らしく暮らせる生活の場を選択できることを

目標に、今後も取り組んでいく。